

Hem21 NEWS

公益財団法人
ひょうご震災記念21世紀研究機構
ニュース

「Hem21」は、ひょうご震災記念21世紀研究機構の英語表記である
Hyogo Earthquake Memorial 21st Century Research Instituteの略称です。

VOL. **32** 平成24年 3月
(2012)

CONTENTS

- 1～2 21世紀文明シンポジウム「震災復興と新しい共生社会の実現に向けて」を開催情報ひろば
- 3 平成23年度のひょうご講座、21世紀文明研究セミナーの開催結果について
- 4 HAT神戸掲示板
- 5～8 人と防災未来センター MirAi

管理部

研究調査本部

人と防災未来センター

こころのケアセンター

学術交流センター

21世紀の諸課題について幅広い観点で議論を深める21世紀文明シンポジウムを3月5日に神戸ポートピアホテルで開催しました。

「震災復興と新しい共生社会の実現に向けて」をテーマに、定員を超える約300人が参加。長寿国日本にあって、地域医療・介護、コミュニティ、福祉産業といった視点から、これからの社会を支えていく新しい地域の形はどのようなものであるべきか、またその活性化のためにはどうすればよいかについて議論を深めました。



基調講演を行った鎌田實氏

冒頭、主催者を代表し具原理事長が、「これまでわれわれはずっと人口が増加することを前提にいろいろな仕組みを作り、今の日本をつくり上げてきた。

しかし、今後は急速な高齢化を伴いながら人口減少に入っていく時代であり、今回の復興に当たっては、今までの考え方・価値観の転換を図っていく必要があるのではないか」と述べました。

続いて、諏訪中央病院名誉院長の鎌田實氏から「～命を支えるということ～“がんばらない”けど“あきらめない”」と題して基調講演がありました。鎌田氏は、これまでの地域医療の経験、そしてチェルノブイリや今回の東日本大震災の被災地での支援活動の事例を紹介しながら「立ち直るためには我慢はよ

21世紀文明シンポジウム 「震災復興と新しい共生社会の実現に向けて」を開催

くないこと。人は仕事を得て元気を取り戻すもの。少しでも誰かのためと思いつきながら相手の身になり行動していくことが大切」と話されました。

後半のパネルディスカッションでは、小山秀夫氏、松原一郎氏、石川和男氏にご登壇いただき、それぞれ地域医療・介護、コミュニティ、福祉産業の視点からお話いただきました。

小山氏は、「東日本大震災の医療支援を見ると、救急医療に比べて慢性期医療への対応が十分ではない。高齢者人口の増加という社会変化に伴い、世の中のニーズも変わってきている。それを踏まえて、地域で統合的に動いていく医療・介護システムに変えていくことが必要」と述べられました。

松原氏は、「阪神・淡路大震災後の災害復興公営住宅での状況を踏まえると、介護保険や地域医療とまちづくりが一緒になった高齢者自立支援の仕組みが必要である。これからは社会参加やQOLの向上のために、地域社会がどのような役割を果たせるかという視点での地域社会の活性化が、高齢者一人一人のエンパワーメントに結び付く」と主張されました。

石川氏は、「これからの社会保障産業として、文明、特にITを使った高齢者のバーチャルコミュニティをつくることを考えている。これは災害以前の平時の



会場全景

つながりや寂しさの解消に有効であり、ビジネスとして成立させ、高齢者から若者への所得移転を可能にできれば、経済の活性化にもつながる」と述べられました。

最後にコーディネーターの野々山久也氏が、「団塊世代が後期高齢者になる10年後から大介護時



パネルディスカッション

代が始まる。しかし、全ての高齢者をケアの対象と考える必要はなく、消費の対象、労働者としての活用などの良い方向で考えていけば千載一遇のチャンスと捉えることができ、そういう社会をいかにつくっていくかを考えることが大切」と締めくくり、閉会となりました。

- 基調講演
鎌田 實 諏訪中央病院名誉院長、
日本チェルノブイリ連帯基金(JCF)理事長
- パネリスト
小山 秀夫 兵庫県立大学大学院経営研究科教授
松原 一郎 関西大学社会学部教授
石川 和男 政策家、NPO社会保障経済研究所代表、
(公財)東京財団上席研究員
- コーディネーター
野々山久也 (公財)ひょうご震災記念21世紀研究機構
研究調査本部研究統括、甲南大学名誉
教授

情報ひろば

学術交流センター

研究情報誌「21世紀ひょうご」 第12号発行のお知らせ

現代社会の課題を的確にとらえ、専門的立場から課題を分析・紹介し、具体的な提案を行う情報誌です。B5判約100ページ。

■巻頭言

兵庫県こころのケアセンター参与・神戸大学名誉教授 中井久夫

■特集「東日本大震災からの復興を考える 2

～東北の風土・特性を踏まえたソフト面での課題と対応～

- ・暮らしの文化と復興に向けての課題
(東北学院大学文学部教授 政岡伸洋)
- ・災害時要援護者への対応と課題
(京都橘大学看護学部教授 河原宣子)
- ・県外避難者への支援とその課題
(川崎医療福祉大学医療福祉学部准教授 田並尚恵)
- ・グリーンケア・心のケア～東日本大震災から更に考察～
(NPO法人阪神高齢者・障害者支援ネットワーク理事長 黒田裕子)

■トピックス

- ・国際防災・人道支援フォーラム2012/減災シンポジウム
「津波災害から学ぶ減災社会の構築」(講演要旨)
- ①人と防災未来センター長 河田恵昭
- ②宮城県気仙沼市長 菅原 茂
- ③インドネシア副大統領室公共管理担当副代表、元インドネシア
国アチェ・ニアス復興庁最高(業務)責任者 エディ・プルワント
- ④国連大学シニア・アカデミック・プログラム・オフィサー
スリカーンタ・ヘーラト
- ⑤東北大学大学院工学研究科教授 今村文彦

⑥パネルディスカッション

コーディネーター:(独)土木研究所水災害・リスクマネジメント
国際センター長 竹内邦良

パネリスト:上記4名(菅原氏を除く)

- ・アジア太平洋フォーラム・淡路会議「国際シンポジウム」
(記念講演要旨)
- ①(公財)ひょうご震災記念21世紀研究機構理事長 貝原俊民
- ②佛教大学社会福祉学部特任教授、
元スウェーデン・ラトヴィア特命全権大使 藤井 威
- ③日本統合医療学会理事長、東京大学名誉教授 渥美和彦
- ・阪神・淡路と東日本:復興への足取り
(日本記者クラブ記者会見講演)
(公財)ひょうご震災記念21世紀研究機構研究調査本部
研究統括 林 敏彦

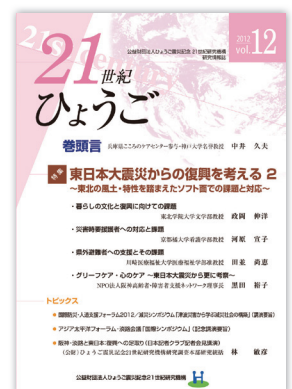
▶発行=年2回

▶購読料=800円(送料別途)

※定期購読をされる場合は、年間購読料1,600円(送料込み)

●申し込み・問い合わせ

学術交流センター
TEL 078-262-5713
FAX 078-262-5122
Eメール gakujuitsu@dri.ne.jp



平成23年度のひょうご講座、 21世紀文明研究セミナーの開催結果について

兵庫県には全国第4位にも上る数の大学があるほか、多くの研究機関も集積しており、知の拠点とも言える基盤があります。学術交流センターでは、これら兵庫にゆかりのある知的資源を活用した高度な学習機会の提供などを目的に、「ひょうご講座」と「21世紀文明研究セミナー」を開催しました。

1. ひょうご講座

兵庫県内の大学や研究機関と連携して、専門的な大学教養レベルの生涯学習講座「ひょうご講座」を実施しました。平成23年度は、兵庫県民会館（神戸市中央区）で、秋期（9月～11月）に全6科目を開講。10回シリーズの連続講座として、一つの科目、テーマを深く掘り下げ、幅広い視点から考察するのが本講座の特徴です。

国際経済の分野では「TPP・貿易の自由化と世界各国の経済」をテーマに、各国の経済専門家が講師として登場。わが国の貿易自由化の歴史から、TPPの基礎知識をまず説明。その上で、さまざまな国の経験や取り組みを参考にテーマを再考するという流れで講義が行われました。同時期に、国内でのTPP議論が活発になり、受講者からも質問が飛び交い、白熱した講義となりました。

自然環境の分野では「都市山六甲、最新自然情報」と題して、知っているようで知らない「六甲山」の本当の姿を各分野の専門家がさまざまな視点から明らかにしていきます。近畿の中心に位置する六甲山は日本一の「生物交流・共生の場」であり、大都市に隣接し、環境、文化、防災機能等を併せ持つ、日本一の「都市山」でもある、という新たな魅力に迫る内容となりました。今後の生物多様性保全のあり方も同時に考察し、受講者からも大変好評を得ました。

初めての農業分野では「日本農業の再構築を考

る」をテーマに、日本の食料問題を正面から問い直し、受講者と共に日本を元気にする農業を熟思する充実した講座となりました。

日本の食文化の原点である米を食べない暮らしが、食料自給率低下の一因です。一人一人が食文化を見直し、毎日ご飯と味噌汁を食べる暮らしを続けることが、農業を活性化させる大きな力となることを強く受講者に訴え、多くの共感を得ました。講師の実体験に基づく講義は、知識にとどまらず、今後の生き方や考え方にも大きな影響を与えたのではないのでしょうか。

他にも心理テストを通じて自分の無意識と向き合い、自己を探る講座や、急成長する中国の近代化に潜む問題を多彩な切り口で考察する講座、さらに初の試みとして「美を探る」と題して、絵画、陶芸などの美の達人と共に東西文化の芸術を探求する講座を実施しました。

受講者アンケートでは、8割以上の方が「満足」「ほぼ満足」、また、約9割の方が今後も「是非参加したい」「できれば参加したい」と回答いただきました。

24年度も秋期（9月上旬～11月下旬）に開催の予定です。詳細は、当機構ホームページや、ニュースレター等でお知らせします。



2. 21世紀文明研究セミナー

21世紀文明社会には、災害、環境、健康、福祉等でさまざまな課題があります。これらの課題を乗り越えていくためには、人類が平和に生活するための技術＝「平和の技術」が求められます。当機構を含むHAT神戸の国際・研究機関ではそのような分野の研究を進めており、21世紀文明研究セミナーでは、これら機関の知的ネットワーク（国際・人道支援協議会）の研究・調査の情報を発信し、課題解決に向けた方策を講義プラス質疑応答・意見交換方式で参加者と共に考えるセミナーです。

23年度は「安全安心」「共生社会」「防災」「環境」「芸術」の5分野で各分野6講座の計30講座を10月5日から3月2日の5カ月間にわたり実施しました。主な参加者は一般の県民に加え、研究者や実践的な課題を抱える行政、企業、NPO関係者等です。

具体的には、安全安心分野では「安全安心・国際貢献」をテーマに地域経済、社会的企業、コミュニティ・デザイン、災害安全度、合併と地域防災力、災害の国際協力の観点から6講座、共生社会分野では「長寿国につぼん活性化」をテーマに社会保障財源、結婚観・家族観、他人と暮らす技法、参画協働、人材の国際移動などについて6講座を開催。防災では昨年3月に発生した東日本大震災を踏まえて、「南海・東南海地震を踏まえた広域災害の対応」をテーマに津波防災、交通対応策、広

域避難、経済復興、要援護支援者対策、グリーンケアの6講座を開きました。また、環境分野では「循環型社会」をテーマに廃棄物処理に関して現状や国際協力、リサイクルの実態、災害廃棄物などについて6講座、芸術は「美術館をもっと知ろう」をテーマにデザインとまちづくり、学芸員の実像、震災美術品の修復、企画展等の紹介などについて6講座を行いました。特に、東日本大震災については、防災分野はもちろん、直接は関係の薄い他の分野においても震災に関係する講座を含めるよう配慮しました。

30講座を通じて延べ1,393人が受講され、これは定員の1.5倍に上ります。特に防災分野は、国難とも言える東日本大震災に伴って、自らの家族や組織の防災に役立てたいとの理由から、5分野のうちで最も高い倍率である定員の2倍の参加者が受講されました。また、防災分野は、企業や行政、研究機関やNPOなど専門性の強い方々の割合が多かったのも特徴的でした。

各講座終了後に回収しているアンケート結果では、約9割から「知識の習得に役立った」などの回答を得ており、「広汎な分野の知識・情報を提供してもらった。セミナーの継続を切望する」との意見も多かったことから、来年度も時宜にかなった内容を盛り込みながら、同様の開催を予定しています。

HAT神戸 掲示板

兵庫県立美術館

日本の印象派・金山平三 移りゆく時間の中で描く日本の風景

開館10周年を記念して、神戸出身の洋画家、金山平三(1883-1964)の回顧展を開催。本展では国内の所蔵者から多くの作品を集め、若き日の渡欧時代、官展出品の時代、晩年の「孤高の画家」の時代にそれぞれ焦点を当て、金山平三の偉業をあらためて検証します。



金山平三「雨のプラザ・ビガール」1915年

- 会期=4月7日(土)~5月20日(日)
- 観覧料=一般1,200(1,000)円、大学生900(700)円、高校生・65歳以上600(500)円、中学生以下無料
- ※()は前売りおよび20人以上の団体割引料金(高校生・65歳以上は前売りなし)
- ※前売券は4月6日(金)まで販売(会期中を除く)
- ※障害のある方とその介護の方1人は各当日料金の半額(65歳以上を除く)

コレクション展I 美術をみる8つのポイント

近現代美術を見る上で役立つ、8つの鑑賞ポイントを問いかけながら、これに沿ってコレクションの主要作品を楽しく分りやすくご覧いただけます。

- 会期=6月24日(日)まで
- 観覧料=一般500(400)円、大学生400(320)円、高校生・65歳以上250(200)円
- ※()は前売りおよび20人以上の団体割引料金
- ※特別展「日本の印象派・金山平三」の観覧券(または半券)をお持ちの方は、特別展期間中に限り本展無料(5月20日まで)

- ◎休館日=月曜(4月30日は開館し、5月1日に休館)
- ◎開館時間=10時~18時(特別展開催中の金曜・土曜は20時まで)
- ※入場は閉館の30分前まで
- TEL 078-262-0901 <http://www.artm.pref.hyogo.jp/>

JICA関西

◆JICA関西映画鑑賞会「マジでガチなボランティア」

「世界は変えられなくても、世界を変えるキッカケにはなれる」とギャル男の大学生が始めたボランティア活動。その姿を3年間にわたり密着した青春ドキュメンタリー映画を上映します。当日は、JICAボランティア募集説明会と同時開催!



- 日時=4月15日(日)12時40分から14時15分まで
- 場所=神戸国際会館9階大会場
- 参加費=無料 ※事前申し込み必要

◆国際協力連続セミナー in JICA関西

「日本政府が実施する開発援助(ODA)は何のために行われているの?」
国際協力の最前線で勤務経験のある講師が、開発課題に対してどのよう

な取り組みがされているのかをお話します。どなたでもお気軽にご参加ください。

- 日時=4月23日、5月14、21、28日(月)18時30分から20時まで
- 場所=JICA関西
- 参加費=無料 ※事前申し込み必要

◆JICA関西食堂のご案内

JICA関西1階の食堂(カフェテリア方式)は、どなたでも利用できます。完全禁煙で、安心して料理を楽しめ、子供椅子を6脚用意していますので、お子様連れも歓迎です。大好評の月替りエスニック料理(飲物付¥700)は4月は、2011年にご紹介したエスニック料理の中から人気投票を行い第1位に輝いたメニューをご用意します。5月は、ハラフア料理です。ぜひ、お越しください!



写真は1月のスリランカ料理

- メニューの詳細と写真については、こちら→ <http://www.jica.go.jp/kansai/office/restaurant/index.html>
- 営業時間=(昼)11時半から14時まで (夜)17時半から21時まで
- ※各終了30分前ラストオーダー
- 定休日=無休(但し、年末年始を除く)

◆JICAプラザ関西(広報展示室)「I ♥ AFRICA」

人類発祥の地であるアフリカの歴史や人々の暮らしを紹介します。また、開発途上国の多様な文化に触れることができる体験コーナーもあります!

- 日程=4月7日(土)から6月25日(月)まで
- 時間=11時から18時まで(無休/入場無料)

◎申し込み・問い合わせ

JICA関西(独立行政法人国際協力機構関西国際センター)
TEL 078-261-0341(代) FAX 078-261-0342
〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通1-5-2
Eメール jicahic-event@jica.go.jp <http://www.jica.go.jp/kansai/>
※JICA兵庫は、2012年4月1日よりJICA大阪と統合し、JICA関西と改称します。

日本赤十字社

活動資金ご支援のお願い

日本赤十字社は、阪神・淡路大震災の経験と教訓を踏まえ、東日本大震災のような突然の大災害にも迅速に対応できるように日頃から災害救護訓練を行ったり、皆さまが健康で安全な毎日を送るための講習普及活動、看護師養成、青少年の育成など、命と健康を守るさまざまな活動を行っています。



東日本大震災の避難所にて

これらの活動は、皆さまから寄せいただく活動資金によって支えられています。

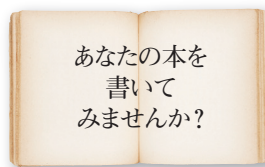
赤十字活動の趣旨にご理解をいただき、活動資金へのご協力をお願いいたします。

◎活動資金に関するお問合せ

日本赤十字社兵庫県支部 振興課
お電話から TEL 078-241-8921
パソコンから

言葉を伝える

私に伝えた
誰かのように



あなたの本を
書いて
みませんか?

小説、自伝、詩集などあなたがお書きになった原稿をご予算に応じた自費出版プランでご提案いたします。また、各企業の記念誌等の企画・プロデュースもいたしております。どうぞお気軽にご相談ください。

ISO14001

当社の印刷センターはISO14001の認証を取得しています。新聞印刷及び各種商業印刷



株式会社 神戸新聞総合印刷 078-362-7180
〒650-0044 神戸市中央区東川崎町1-5-7 <http://www.kobepn-printing.co.jp/>

印刷物の企画プロデュースから編集・印刷まで、ニーズに合わせてトータルに手がけます。

企画・デザイン・編集・制作・新聞印刷・商業印刷
出版印刷・新聞広告・雑誌広告・SP・イベント・IT事業

ひょうご安全の日のつどい

阪神・淡路大震災から17年を迎える平成24年1月17日に、震災の経験と教訓を発信し、1.17を忘れずに語り継ぐため、ひょうご安全の日のつどいが開催されました。

センターの慰霊のモニュメント前では「1.17のつどい」が行われ、カリヨンの鐘にあわせて黙祷が捧げられました。

会場であるHAT神戸はメモリアルウォークの終点となっており、会場の南側に位置するなぎさ公園では防災啓発展示や防災訓練、ステージでのミニコンサート等が実施されたほか、メモリアルウォーク参加者が黄色い花形の紙に東日本大震災被災地への応援メッセージを書いた「シンサイミライノハナ」も展示されました。センターのブースでは、段ボール、アルミホイル、梱包材を用いて電気を使わずに暖を取る方法の実演等を行い、参加者は興味津々に効果を試していました。

公園中央には炊き出しのブースが並び、うどん、豚汁、カレー、おでん等がふるまわれました。

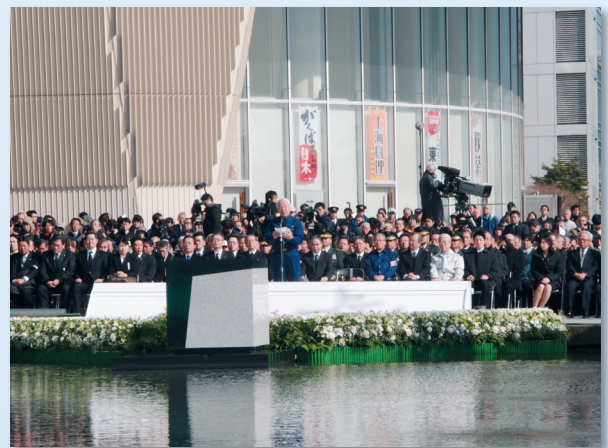
センター「友の会」では、阪神・淡路大震災被災者の団体「いきいきネットワーク」との協働で炊き出し大会に参加しました。

友の会メンバーは炊き出しブース内の「うどんコーナー」や「カレーコーナー」での配膳等を行いました。

この日は天候にも恵まれ、食材はすべて完売。炊き出し大会は盛況のうちに終わりました。



交流ひろばの人と防災未来センターブース



「1.17のつどい」の様子



センター「友の会」炊き出し会場

1・17ひょうご安全の日宣言

阪神・淡路大震災から17年経った
 私たちは日本と世界の多くの人たちに
 地震を経験する前に教訓を知ってもらいたい 生かしてもらいたい
 そのように願って 発信し続けてきた

阪神・淡路大震災は 活断層が起こした内陸直下型だった
 でも 私たちはもう一つの地震があることを知っていた
 それはしばしば大津波を伴うプレート境界地震だ

3月11日に東日本大震災が起こった
 東北地方から関東地方にかけて
 広い範囲での地震と津波 そして原子力事故による大きな被害をもたらした
 2万人もの犠牲者・行方不明者 45万人を超える避難者が生まれ
 人びとの生活と美しい国土が破壊され 大きな悲しみをもたらした

新燃岳の噴火や台風第12号災害も起こった
 私たちは自然災害が多発し激化する時代に生きている
 もうこれ以上 悲しい思い出を作らないようにしたい
 それには災害文化をつくり 伝え そして備えて行動するしかない

伝えよう もっと伝えよう阪神・淡路大震災の教訓を
 つぎの震災や津波 風水害 そして火山噴火や土砂災害に備えて
 震災の教訓は すべての災害に通じる知恵だから

2012年1月17日
 ひょうご安全の日推進県民会議



国際防災・人道支援フォーラム2012／減災シンポジウム

1月19日、「津波災害から学ぶ減災社会の構築」をテーマに、神戸ポートピアホテルにおいて、「国際防災・人道支援フォーラム2012／減災シンポジウム」が開催されました。発災から1年を迎えようとしている東日本大震災やインド洋大津波の関係者から復旧・復興の取り組みを報告いただき、大災害の経験と教訓を共有して国内外に発信することにより、今後発生する大災害に備えた減災社会の構築に貢献することを目指し、国内外の防災・行政関係者等が意見を交わしました。

基調講演では、人と防災未来センターの河田恵昭センター長が今後の津波対策について、「あらゆる可能性を考慮した最大クラスの地震と津波を検討すべき。津波被害を軽減するため、最大クラスの津波に対しては、被害を最小限にとどめる減災の考え方にに基づき、海岸保全施設等のハード対策によって被害をできるだけ軽減するとともに、防災教育など避難を中心とするソフト対策を重視しなければならない」と述べました。

また、続いての講演では、気仙沼市の菅原茂市長、インドネシア副大統領室公共管理担当副代表のエディ・プルワント氏、国連大学シニア・アカデミック・プログラム・オフィサーのスリカーンタ・ヘーラト氏、東北大学大学院工学研究科の今村文彦教授の4人から東日本大震災とインド洋大津波からの復旧・復興への取り組みについて、それぞれの立場から報告を頂きました。

その後のパネルディスカッションでは、(独)土木研究所水災害・リスクマネジメント国際センターの竹内邦良センター長をコーディネーターに迎え、4人のパネリストにより、大震災からの復興に向けた新しい復興像・国際的な連携、デジタルアーカイブの継承等について、議論を深めました。



パネルディスカッション



フォーラム会場全景

TeLL-NETフォーラム2012



2月28日、「災害の記憶・記録の保存と語り継ぎ」をテーマに、人と防災未来センター「こころのシアター」において、「TeLL-Netフォーラム2012」が開催され、「災害語り継ぎ」について、国内外のミュージアム・報道関係者らが意見を交わしました。

基調講演では、まず、(公財)ひょうご震災記念21世紀研究機構の貝原俊民理事長が「災害の語り継ぎの意義」について講演。地震は繰り返して起こる自然現象であり、「語り継ぎ」により「人の営み」を記録していくことが大事、と訴えました。

続いて、人と防災未来センターの河田恵昭センター長が、「災害の語り継ぎ研究」について講演。石巻市松原地区の東日本大震災の避難状況を調査し、60歳以上の高齢者に犠牲者が多かった事例から、避難勧告の早期化や精度向上だけでは人的被害の軽減は難しく、高齢化社会に対して地域で活動を引き起こさなければならないと指摘。「日ごろやっていることしかできない」と日常防災と防災教育の大切さをあらためて指摘。次の災害に向けて備えなければならないと論じました。

その後、2部構成でパネルディスカッションを開催。第1部ではアチェ津波博物館のラマダニ館長、陸前高田市立博物館の熊谷賢主任学芸員、盛岡大学の橋本裕之教授のミュージアム関係者が「津波の記憶・記録とミュージアム」をテーマに、第2部では、河北新報社の須藤宣毅記者、神戸新聞社の安藤文暁記者、NHK大阪放送局の近藤誠司専任ディレクターの報道関係者が、「メディアによる災害記録の保存と語り継ぎ」をテーマに、それぞれ、事例発表、パネルディスカッションを行いました。



パネルディスカッション (第1部)



企画展示

災害メモリアルKOBЕ 2012

1月7日午後、人と防災未来センターにおいて、「災害メモリアルKOBЕ2012」が開催されました。

災害メモリアルKOBЕは、次世代の育成、世代間交流による語り継ぎなどを通じて、市民の防災力を高めることを目的として開催しているもので、今年で7回目。今回は、「1.17 3.11 ふたつの災害とわたしの未来」をテーマに掲げました。

前半の部は、小・中学生による作文発表。神戸市内の2つの学校で行われた特別授業を受けた児童・生徒による感想文の朗読です。神戸市立鷹取中学校2年生と神戸市立西山小学校5年生の児童・生徒に、阪神・淡路大震災の発生当時に最前線で活躍し今回もまた東日本大震災の被災地に支援に駆けつけた方や、子どもの頃から阪神・淡路大震災について学び、東日本大震災で初めて大きな災害に直面した若い方へ語りかけていただきました。児童・生徒の作文は、当時の大変な体験、人と人とのつながりや災害への備えの大切さなどを訴えた講師の語りをそれぞれの視点で受け止めていました。

後半の部はパネルディスカッションが行われ、特別授業の講師を務めたハラフユコ氏、松原侑香氏、河田のどか氏、黒田裕子氏の4人の方々に、1.17を経験した神戸は、これからどのように東日本大震災に向き合えばよいのか、来るべき東海・東南海・南海地震に向けて、私たちはどのような備えをすべきかについて議論していただきました。

この他、東日本大震災の被災地から神戸にやって来た中・高校生による被災体験の報告と、神戸から被災地支援に駆け付けた中・高校生による現地での体験とそこで考えたことの発表が行われました。また、日頃から心と音を合わせ和することの大切さや協力することの大切さをハンドベルで学んでいる学校法人 大阪集成学園 守口幼稚園の皆さんによるミニコンサートもあり、作文を発表した児童・生徒やその家族、学生、防災関係者、ボランティアなど約300人が、世代を超えた震災の語り継ぎの大切さについて深く思いをはせる機会となりました。



作文発表



ハンドベル ミニコンサート



スペシャルセッション



パネルディスカッション

(公財)ひょうご震災記念21世紀研究機構

阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター

〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通1-5-2

観覧案内・予約 / TEL 078-262-5050 <http://www.dri.ne.jp/>

開館時間 9時30分～17時30分(入館は16時30分まで)
 ※7月～9月は9時30分～18時(入館は17時まで)
 ※金曜、土曜は9時30分～19時(入館は18時まで)

入館料金

大人	大学生	高校生	小・中学生
600円(480円)	450円(360円)	300円(240円)	無料

※()は20人以上の団体料金
 ※障害者、65歳以上の高齢者は上記の半額

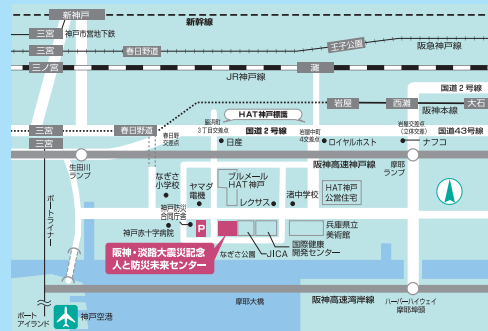
休館日

毎週月曜(月曜が祝日の場合は翌平日)、12月31日と1月1日
 ※ゴールデンウィーク期間中(4月28日から5月5日まで)は無休
 ※資料室の開室日についてはホームページでご確認ください

交通

- 鉄道**
- ・阪神電鉄「岩屋」駅、「春日野道」駅から徒歩約10分
 - ・JR「灘」駅南口から徒歩12分
 - ・阪急電鉄「王子公園」駅西口から徒歩約20分
- バス**
- ・三宮駅前から約15分
 - ・阪神高速道路神戸線「生田川」ランプから約8分
 - ・阪神高速道路神戸線「摩耶」ランプから約4分
 - ・阪急・阪神・JR「三宮」駅から約10分

●有料駐車場あり ●バス待機所(予約制/無料)あり



宮城県より感謝状をいただきました



感謝状

東日本大震災発生直後から、人と防災未来センターは宮城県において、政府現地災害対策本部と連携し、6月24日までの約3カ月間、研究員が常駐支援を行ったり、宮城県の災害対応の検証事業を行う等、さまざまな支援活動を行ってまいりましたが、このたび、宮城県より感謝状をいただきました。

センターでは、今回の現地支援活動で築いてきた「絆」を大切に、今後も被災地支援に取り組んでいきます。

「阪神・淡路大震災復興誌」がホームページで閲覧できるようになりました

東日本大震災を契機に、災害からの復興が重要なテーマとして改めて注目されています。阪神・淡路大震災の復興については、(財)阪神・淡路大震災記念協会(1巻・2巻は(財)21世紀ひょうご創造協会)によって、多くの資料・記録等を基に「阪神・淡路大震災復興誌」全10巻にまとめられ、センターの資料室で開架しております。さらにこのたび、センターのホームページで全ページを閲覧できるようになりました。

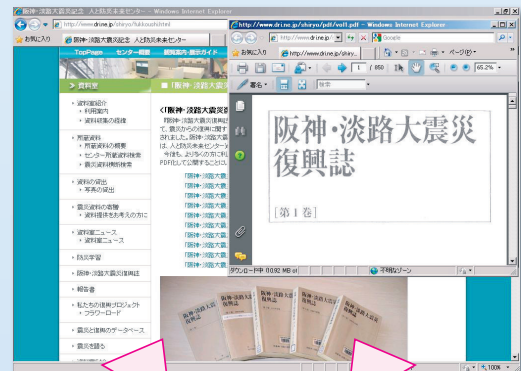
併せて、震災資料の活用や公開についての研究会の報告書3種類についても、震災の記録を後世に残すひとつの先例として、閲覧できるようになりました。ぜひご活用ください。

阪神・淡路大震災復興誌

<http://www.dri.ne.jp/shiryo/fukkoushi.html>

報告書

<http://www.dri.ne.jp/shiryo/report.html>



当機構は、以下の組織で構成しています。

●管理部
TEL 078-262-5580
FAX 078-262-5587

●研究調査本部
TEL 078-262-5570
FAX 078-262-5593

●人と防災未来センター
TEL 078-262-5050
FAX 078-262-5055

●学術交流センター
TEL 078-262-5713
FAX 078-262-5122

●こころのケアセンター
〒651-0073
神戸市中央区脇浜海岸通1-3-2
TEL 078-200-3010
FAX 078-200-3017

ニュースレターに関するご意見・感想を機構までお寄せください



Hem21 NEWS
vol.32

平成24年3月発行

(公財)ひょうご震災記念21世紀研究機構
〒651-0073
神戸市中央区脇浜海岸通1-5-2(人と防災未来センター)
<http://www.hemri21.jp/>